

（個人質問）

市民クラブ

児童生徒及び校舎の防災対策について

問 東日本大震災を教訓とした市内小中学校の児童生徒及び校舎の防災対策と今後の方針について伺いたい。

答 文科省から示されたチェックリストに基づき、4月当初に避難経路、避難訓練等についての緊急点検を実施するとともに、地震、津波発生時の対応について危機管理マニュアルを見直した。また、本年4月現在の市立小中学校施設の耐震化率は66・6%で、平成27年までに90%を目指しているが、国の施設整備基本方針の改正なども踏まえ、事業の前倒しも視野に入れながら、できるだけ早期に耐震化を完了させたい。

西浜通りの露天商への対応について

問 西浜通りの露天が完全一掃されたが、まちの活性化や、にぎわいのあるまちづくりの観点から、観光客が足を運べるような朝市を中心市街地で日常的に行う考えはないか。

答 平成21年度から、長崎市内産の農水産物の地産地消の推進、地域の活性化、にぎわいと活気のあるまちづくりを目的に長崎朝市モデル事業を実施している。まずはこの事業を通じて出された駐車場や交通アクセスの問題をはじめとする諸問題や、継続実施のための適地の選定などについて十分に検証したい。

脱原発とノー・モア・ヒバクシャについて

問 東電福島第一原発事故以来、今後のエネルギー政策や脱原発を目指すかどうかが国民的課題となっている。被爆都市長崎の市長として、人間の手でコントロールできない原発の見直しを表明するべきだと思いが、見解を伺いたい。

答 原発への対応も含め、国民的な議論をする機会としなければならぬと思うし、世界の原発への対応も含めて論点を出し尽くすところから始めなければならぬと考えている。

第3回UN-1世界大会について

問 昨年11月に長崎で開催された「第3回UN-1世界大会」の本市としての

評価及び成果をどうとらえているのか伺いたい。

答 国際平和都市長崎の存在を世界にアピールできた良い機会であったとともに、海外の多くの方々に長崎を訪れていただくことで、被爆の実相に触れ、広く世界に向けて平和の尊さを訴えることができた得がたい取り組みであった。本市においても大型国際コンベンションの開催が可能であるという次につながる成果を得ることができたことも、重要なポイントであると考えている。

通訳ガイドの育成と積極的活用について

問 国による総合特区の特例措置により、一定の研修を受講することで有償による通訳ガイドを認める方針があるに聞いています。本市でも、特に中国語、韓国語の通訳ガイドを増加させることが急務であり、積極的な活用も重要であると考えるが本市の所見を伺いたい。

答 国の特区指定を受けることにより、通訳ガイドの数が一定確保されるが、質についても配慮する必要があると考える。今年度、宿泊施設等にガイドを派遣し講座を行う事業を実施予定であり、通訳ガイドの存在が広く知られることにより、活用が図られることを期待している。

長崎外環状線（新戸町―柳田）の推進状況について

問 本市の中心部と南部地区を結ぶ国道49号上の鹿尾橋が、地震、津波などの災害で決壊することになれば、南部地域の死活問題にもつながる。生活道路、産業道路のもう一本となり得る外環状線の建設の現状について伺いたい。

答 県によると整備による効果は想定しているものの、事業着手のめどはついていない。本市としては、災害時の対応を含め整備は必要であると考えており、これまでも長崎外環状線道路建設促進協議会とともに早期完成を働きかけてきた。今後、地域の声をより直接伝えるため、地元の代表などに協議会への参加を相談し、その上で国や県に対する働きかけを一層強めていきたい。

明政・自由クラブ

バイクの「ご当地ナンバープレート」導入について

問 第1種、第2種原動機付自転車のナンバープレートを地域独自のものにする事によって地元を愛着と誇りが持てるようになり、市の宣伝効果にもなることから、本市も、ご当地ナンバー